

SGH: グローバル教育プロジェクト (人材育成について)

フィリピンでの海外研修の提案

1984年から2002年(経歴参照)の間、国連専門機関である世界保健機関(WHO)の専門官として、フィリピン、マニラに勤務してきました。日本人が不得手である外国語で仕事をする難しさを痛感してきました。勤務後年に帰国子女が目立つようになってきましたがパスポートは日本人であるが日本文化・歴史についての知識の欠如があり自国について明確なプレゼンテーションができません。このプロジェクトはグローバルに活躍できる人材を育てることにありますが外国語で意思疎通ができるだけでなく自国の文化・歴史を理解しそれを伝える能力も兼ね備えた人材育成が必要不可欠であると思っております。

海外勤務は、フィリピンのマニラにある世界保健機関西太平洋事務局から始まりました。フィリピンの公用語として自国語と英語があり、英語教育に優れた人材が当たっており、私の秘書も英語に堪能で仕事をこなしてくれました。

若い人が手始めに異文化を知る国としては、フィリピンが良いと思っています。何故なら英語教育だけでなく植民地・第二次世界大戦における日本の歴史並びに貧困と豊かさの社会に触れる機会をもて、改めて日本で育ってきた自分を見直すことが出来るからです。このことは勤務していた大学の学生の海外研修地としてフィリピンで実施した経験でも実証できたからです。実際に大学でのフィリピンでのスタディーツアーでは、日本とは、異なる環境や体験の中で

アジアの同世代の人々の交流を通じて、若者の意識の変化や、日本の社会のグローバル化のヒントが、フィリピンの社会にはある事と思います。

今井 健雄



今井 健雄

東京学芸大学附属高等学校卒

早稲田大学理工学部機械工学科入学・卒業 (1966～1971)

東京女子医科大学付属日本心臓血圧研究所理論外科入局 (1971～1973)

東京女子医科大学大学院外科学専攻入学・卒業 (1973～1977) 医学博士

医療情報開発センター・主任研究員 (1977～1984)

世界保健機関(WHO) 西太平洋地域事務局専門官 フィリピン、マニラ (1984～1989)

世界保健機関(WHO) 本部勤務 スイス、ジュネーブ (1989～2002)

神奈川県立保健福祉大学設立準備室

教授 現在に至る (2003～)

